

やまと文化の森だより 企画展のご案内

併設好評開催中!! (最終日は 15:00 までの展示です)

1月の企画展・イベント

○1/7▶1/26 出張! ロンド美術館
「丸山久幸展」～没24年後の邂逅～

ロンド美術館の所蔵する作品を出張展示します。

○1/25・1/26

ハンドメイド&ワークショップ プティ・マルシェ

2月の企画展・イベント

○2/4▶2/24 トリプル企画展

・さんサンなかま作品展

町内小中学校の特別支援学級に通う児童、生徒の作品を展示します。

・明光保育園作品展

「にっぽんむかしばなし」をテーマに、四季を通しての作品作りをしました。

・山風華作品展

就労支援施設「山風華」の利用者たちによる作品を展示します。

○2/15・2/16

ハンドメイド&ワークショップ プティ・マルシェ

問合 山都町下市 16 番地 ☎ 72-9400 開館時間 9:00 ~ 17:00 入館無料

休館日 毎週月曜日 (月曜日が祝日又は振替休日の場合は次の平日)、年末年始等



トリプル
企画展

山の都地域しごとセンター通信vol.81

移住相談会「くまもと LIFE FES」に参加しました!

12月7日、大阪にて県主催の移住相談会「くまもと LIFE FES 2024」に参加しました。

この移住相談会は、熊本県への移住を検討されている方に各市町村の紹介や個別相談を行うイベントで、移住3年目の五日市さんが実際に移住した感想を交えながら熱く山都町への愛を語りました。個別相談では、移住する際の住居選びや暮らし方など具体的に話す機会となりました。

山の都地域しごとセンターでは、定期的に移住や農業相談会に参加し、山都町への移住に向けた広報や啓発活動を行っています。本年も引き続き移住相談や農業相談を承りますので、お気軽にご相談ください。

問合 空き家や移住・定住に関するお問い合わせは、お気軽にどうぞ。

山の都地域しごとセンター ☎ 72-9111 e-mail:yamato.shigotocenter@machi-y.jp



わたしたちの人権

238

誰もが人間として生きていくうえで
侵すことのできない当然の権利
これが『人権』です

阿波木偶箱まわし 〜人権文化を考える〜

11月26日、「そよかぜ学級・和光教室・議会議員合同人権講演会」で、「阿波木偶箱まわし保存会」による木偶箱まわしの実演と講演が行われました。その講演内容を掲載します。

【阿波木偶箱まわし】は、徳島県西部に受け継がれてきた人形文化で、人形浄瑠璃・文楽の源流です。その形は二つあります。一つは、4体の木偶(人形)《千歳、翁、三番叟、エビス》を二つの木箱に入れて移動し、民家で門明け神事を行う祝福芸の「三番叟まわし」で

す。もう一つは、数体の木偶を二つの箱に入れて移動し、人形浄瑠璃芝居を路傍や民家の庭先、神社境内などで



三番叟まわしの実演に続いて、辻本一英さんが講演をされました。「うちのムラは、何体もの人形を川に流して捨てたんですよ。」なぜなのか。その原因として、戦争やその後の高度経済成長による大きな社会の変化の波に加え、「被差別部落に対する偏見・差別」がありました。祝福の芸をすること、すなわち出自を明かすことになり、いわれなき部落差別を受けた人々は差別を恐れ、差別されるようなことを子や孫の代に背負

演じた娯楽の芸「箱まわし」で、どちらも徳島県独自の芸能です。 「おめでとうござい、おめでとうござい。」の声とともに三番叟まわしが始まりました。神の使いとして

「家内安全」や「五穀豊穡」「商売繁盛」を祈り、正月を祝い福を運ぶ門付け芸で、被差別民衆の中で育まれました。

わけてはならないという思いから人形を川に流して捨て、自らその芸能を離れ自分の子どもや孫に継承させませんでした。その継承されなかった一人が辻本一英さんでした。



【部落差別の始まり】は、平安時代中期の京都(1000年頃)で、民衆の*「けがれ意識」による「排除」の差別です。民衆の差別意識を、時々の政治家が法律や制度に組み込み都合よく利用してきた結果、千年経った現在まで差別が残りました。

「けがれ」があると排除されてきた被差別民衆が、神の使いとして被い清め福を運んでくる。人々はそれを待ち焦がれ歓迎しました。差別を受けながら、社会的に必要とされる仕事や役割、文化を担ってきた。今は日本の代表的な伝統芸能とされる、歌舞伎や狂言、能、文楽なども、その発祥は被差別民衆の文化にあります。部落差別と背中合わせに、差別に負けたり歪められたりせずに日本の芸術を代表する高い文化を生み出しました。

人形遣いの操る三番叟が新年を祝い舞う姿を見て、「偏見・差別のない社会の仕組みと人の心」が、次世代に残さなければならぬ伝統文化を守り、社会を住みやすく豊かにしていくのだと思いました。

*「けがれ意識」人や牛馬の死、天災、火事、犯罪など、通常の状態に変化をもたらす出来事にかかわることを「けがれ」といい、忌み嫌われるとそれが伝染すると考えられ、けがれを清める「清め役」が必要とされた。しかし、清める力を持つ人やけがれに関する仕事(火葬、皮革業、警察、芸能者、庭師など)をすする人は、異質な存在・けがれた人として差別された。

「阿波木偶箱まわし保存会20年の歩み」参照

自分の人権を守り
他人の人権を守る
責任ある行動を



©2010 熊本県くまモン